

第22回日本静脈麻酔学会学術集会 ～若手麻酔科医のおすゝめ～ vol.2

第22回日本静脈麻酔学会 「静脈麻酔のニアミスを防ぐ Prevention of Near Misses in Intravenous Anaesthesia」 学会の見どころ、聴きどころ

麻酔科ジュニアスタッフ某

『緊急手術が入ります！』

詳しい情報も無いまま、緊急患者さんに乗せてストレッチャーが手術室に駆け込んで来た時、あなたが選ぶ麻酔は何ですか？ おそらく多くの麻酔科医は、条件反射的に●●フルランの気化器に手を伸ばすことでしょう、それとも貴男・貴女の上司は「おいた」した子供や犬を叱るが如く、気化器に伸びた手を容赦無く物差しで叩く TIVA オタクでしょうか？

2015年11月14日、東京の田町駅近くで開催される日本静脈麻酔学会は、思わず気化器に手が伸びる習慣を、根本から変える機会となるかもしれません。

と言うのも第22回日本静脈麻酔学会(JSIVA)は、本会史上初のディベート形式企画があるからです。吸入麻酔 vs 静脈麻酔という禁断のテーマで各分野の名だたるプロフェッショナル達が、自らの医療に対する信念と意地をぶつけ合います。おそらく、会場が大きく揺れるほどの熱い口論、いえ、意見交換となり、これまでは知る人しか知らなかった彼らの本音と真の姿が白日の下に晒されることになるでしょう。なお、会場の建物は一応、免震装置が据え付けられているのだろうと希望的に観測しておきます。

さらに、今回はもう一つの特別目玉企画として、医療とは関係のない世界の専門家にお越し頂き、お話を拝聴することになっています。もし「あなたの知らない世界」に足を踏み入れ、そのまま抜けられなくなったとしても、一介のジュニアスタッフに過ぎない私は何の責任も取れないので予めご承知おきください。

静脈麻酔学会と言えば、かつては物理学者・数学者のような麻酔科医達が、常人の迷惑も顧みず傍若無人に☆!★?★!☆と専門用語を交わすオタク集会の様相を呈していたと聞いています。でも今や医療機器とIT技術が進歩したおかげで、私のような者でも気化器に触らずとも安全に全身麻酔が行えるようになり、学会受付の敷居も少しは低くなったように感じています。

どの企画もおそらく二度と目にする事の無い、そして来た人だけが、とても恐ろしくて此処には書けない色々な知見を得る学会です。足を運ばない理由は無いです。

学会当日、受付で呆然と立ち尽くしている女性がいたら、お声をかけていただけることを、心よりお待ちしております。